

2021年2月期第2四半期 (2020年3月1日～2020年8月31日) 決算説明会

わらべや日洋ホールディングス株式会社
(2918)

2020年10月9日



2021年2月期第2四半期連結業績



2021年2月期第2四半期連結業績

➤ 売上高：すべてのセグメントで減収

- 売上高に対する新型コロナウイルス感染症の拡大影響（以下 感染症の影響）は、ほぼ想定通り
- 食品関連は米飯群を中心に減少、食材関連は水産加工品が取扱高減少

➤ 営業利益：感染症の影響を除く食品関連の収益性は向上

- 食品関連：生産体制再構築の効果などにより、想定を上回る収益性向上
- 食材関連：感染症の影響もあり、棚卸資産評価損を計上

➤ 四半期純利益：特別損失計上等により赤字

- 特別損失の一部は、期初に想定していた工場再編関連
- 感染症の影響を考慮し、繰延税金資産の回収可能性見直しを実施

➤ 感染症の影響：（期初想定⇒上期実績）

売上高：△100億円⇒△92億円、営業利益：△18億円⇒△22億円

2021年2月期第2四半期連結業績

(単位:百万円)

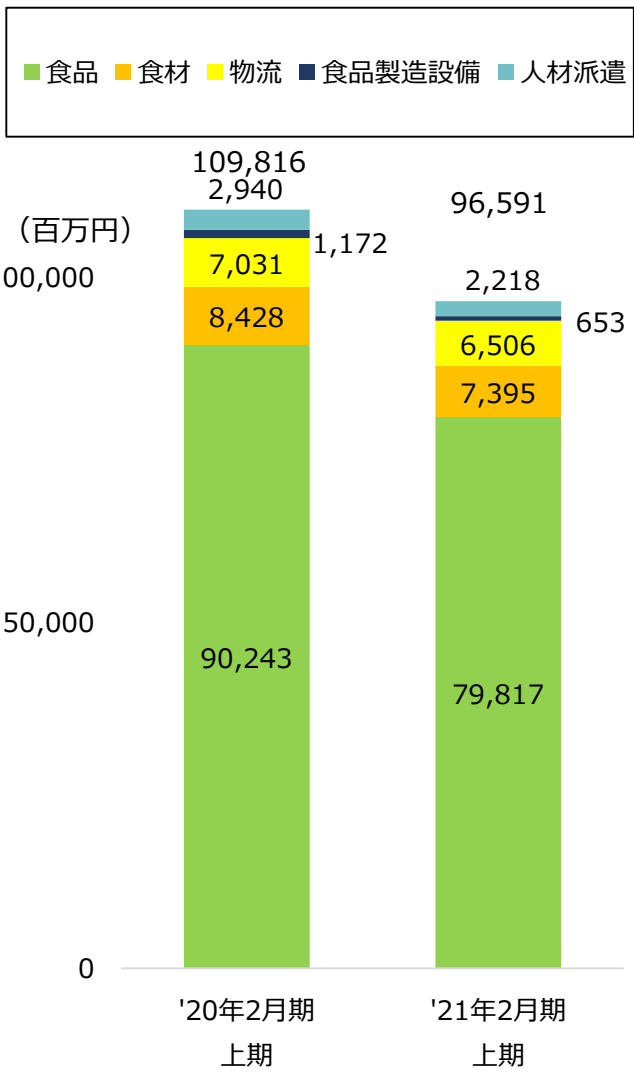
	'20年2月期上期	'21年2月期 上期		前年 同期比	期初予想比
	実績	期初予想	実績		
売上高	109,816 (100.0)	98,000 (100.0)	96,591 (100.0)	△13,225 <△12.0>	△1,408 <△1.4>
営業利益	1,974 (1.8)	500 (0.5)	1,205 (1.2)	△769 <△39.0>	705 <141.1>
経常利益	2,118 (1.9)	800 (0.8)	1,535 (1.6)	△583 <△27.5>	735 <92.0>
四半期 純利益 (当社株主に帰属)	674 (0.6)	△100 (△0.1)	△ 247 (△ 0.3)	△921 <->	△147 <->
EPS(円) (当社株主に帰属)	38.40	△5.70	△ 14.14	△52.54	△8.44

* () 内は売上比率 (%)、<> 内は増減率 (%)、期初予想は2020年4月10日発表の予想数値

セグメント別売上高の状況(前年同期比)

(単位:百万円)

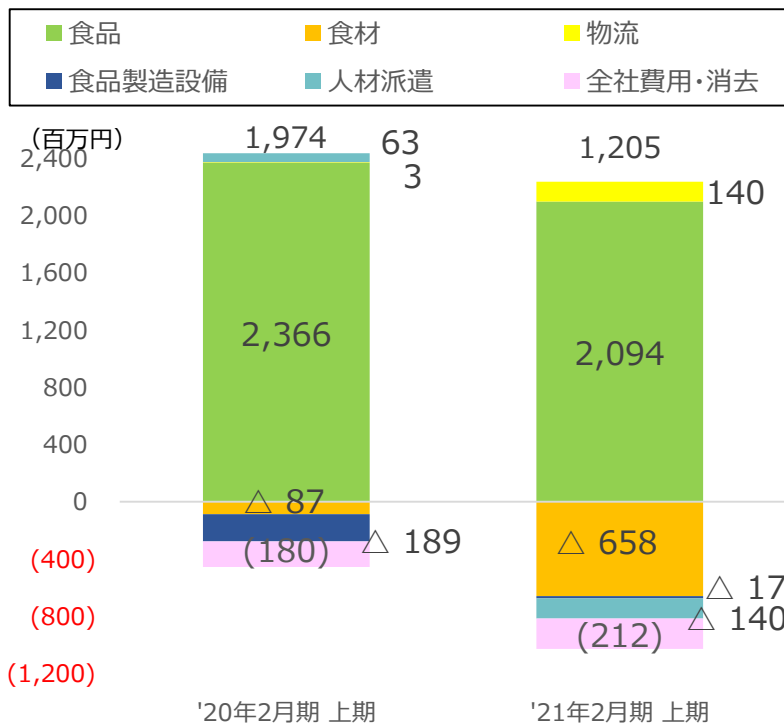
* <> 内は増減率(%)、売上高は外部顧客に対する売上高



	'20年2月期 上期	'21年2月期 上期	増減	増減要因
売上高 合計	109,816	96,591	△13,225 <△12.0>	新型コロナウイルス感染症 の拡大影響△92億円
食品 関連	90,243	79,817	△10,426 <△11.6>	レジャー・外出需要の縮小 などにより、おにぎりを中心 に販売数量減少
食材 関連	8,428	7,395	△1,033 <△12.3>	水産加工品や鶏加工品の 取扱高減少
物流 関連	7,031	6,506	△524 <△7.5>	セブン-イレブン向け 店舗配送等の減少
食品製造 設備関連	1,172	653	△519 <△44.3>	大型案件の受注減少
人材派遣 関連	2,940	2,218	△721 <△24.5>	人材派遣の受注減少

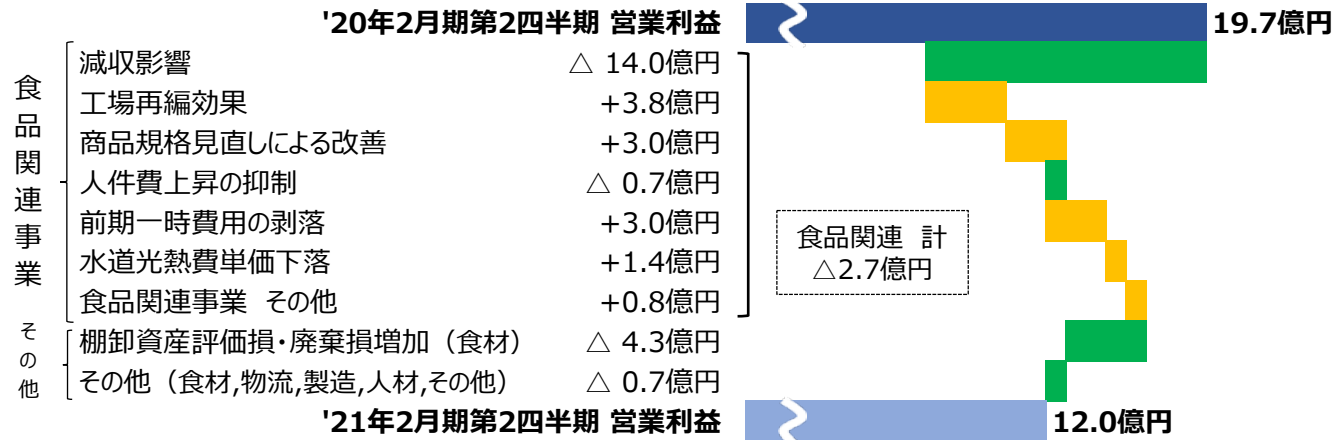
セグメント別営業利益の状況(前年同期比)

(単位:百万円) * <> 内は増減率 (%)



	'20年2月期 上期	'21年2月期 上期	増減
営業利益合計	1,974	1,205	△769 <△39.0>
食品関連	2,366	2,094	△271 <△11.5>
食材関連	△87	△ 658	△571 <->
物流関連	3	140	137 <->
食品製造設備関連	△189	△ 17	172 <->
人材派遣関連	63	△ 140	△203 <->
全社費用・消去	△180	△ 212	△31 <->

**前年同期比 △7.6億円
増減要因**



期初予想との差異要因

(単位:百万円)

	2021年2月期 上期		予想差異
	期初予想	実績	
売上高	98,000 (100.0)	96,591 (100.0)	△1,408 <△1.4>

【差異要因】

食品関連事業	△6.6億円
おにぎり・寿司	△5.0億円
弁当・チルド弁当	△3.0億円
和菓子	+2.0億円
その他	△0.6億円
食材関連事業	△1.4億円
人材派遣関連事業	△4.7億円

(単位:百万円)

	2021年2月期 上期		予想差異
	期初予想	実績	
営業利益	500 (0.5)	1,205 (1.2)	705 <141.1>

【差異要因】

食品関連事業	+13.2億円
人件費上昇の抑制	+2.7億円
商品規格見直し	+2.0億円
諸経費削減	+2.0億円
工場再編効果	+1.8億円
食材関連事業	△6.6億円
棚卸資産評価損計上および売上未達	

* () 内は売上比率 (%)、<> 内は予想比増減率 (%)、期初予想は2020年4月10日発表の予想数値

営業外損益・特別損益の状況(前年同期比)

(単位：百万円)	2020年2月期 上期	2021年2月期 上期	増減
営業利益	1,974 (1.8)	1,205 (1.2)	△769 <△39.0>
営業外収益	418 (0.4)	518 (0.5)	100 <23.9>
営業外費用	274 (0.2)	188 (0.2)	△85 <△31.0>
経常利益	2,118 (1.9)	1,535 (1.6)	△583 <△27.5>
特別利益	- (-)	61 (0.1)	61 <->
特別損失	664 (0.6)	1,157 (1.2)	492 <74.1>
税金等調整前 四半期純利益	1,454 (1.3)	440 (0.5)	△1,013 <△69.7>
法人税等合計	732 (0.7)	641 (0.7)	△91 <△12.5>
非支配者株主利益	47 (0.0)	46 (0.0)	△0 <△1.4>
四半期純利益 (当社株主に帰属)	674 (0.6)	△247 (△0.3)	△921 <->

2021年2月期上期
営業外収益 増減 1.0億円
・持分法投資利益(北京旺洋) 0.5億円

2020年2月期上期
特別損失 6.6億円
・わらべや日洋 香川工場 減損 6.3億円

2021年2月期上期
特別利益 0.6億円
・プロシスタス旧本社売却益 0.6億円

特別損失 11.5億円
・わらべや日洋 岩手工場 減損 7.9億円
・日洋フレッシュ 減損 2.9億円
・日洋 減損 0.5億円

* () 内は売上比率 (%) <> 内は増減率 (%)

連結貸借対照表 (前期末比)

(単位：百万円)

【資産】	2020年2月末	2020年8月末	増減
流動資産	32,566	30,255	△2,311
固定資産	53,512	52,681	△831
(有形固定資産)	(45,673)	(44,446)	(△1,226)
(無形固定資産)	(936)	(861)	(△75)
(投資その他)	(6,903)	(7,373)	(470)
資産合計	86,078	82,937	△3,141

(単位：百万円)

【負債・純資産】	2020年2月末	2020年8月末	増減
流動負債	27,433	24,573	△2,859
固定負債	14,121	14,769	647
(有利子負債)	(11,336)	(12,130)	(793)
負債合計	41,555	39,343	△2,212
純資産合計	44,523	43,593	△929
(利益剰余金)	(28,560)	(27,762)	(△797)
負債・純資産合計	86,078	82,937	△3,141

資産合計 - 約31億円の減少

- 流動資産(現金及び預金、棚卸資産等)の減少 : 約23億円
- 固定資産(建物及び構築物等)の減少 : 約8億円

負債・純資産合計 - 約31億円の減少

- 流動負債(未払金等)の減少 : 約28億円
- 固定負債(長期借入金等)の増加 : 約6億円
- 純資産の減少 : 約9億円

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	'21年2月期 上期		
税金等調整前四半期純利益	440		
減価償却費	2,407		
減損損失	1,157		
売上債権の増減額 (△は増加)	△ 916		
たな卸資産の増減額 (△は増加)	671		
仕入債務の増減額 (△は減少)	50		
未払金の増減額 (△は減少)	△ 2,264		
その他	△ 228		
小計	1,317		
法人税等の支払額	△ 573		
その他	259		
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,003	(前期末休日影響) △ 1,714	補正後CF 2,717
有形固定資産の取得による支出	△ 2,598		
有形固定資産の売却による収入	291		
その他	△ 61		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,368	-	△ 2,368
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 348	-	△ 348
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 27	-	△ 27
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,741	△ 1,714	△ 27
現金及び現金同等物の期首残高	7,902	1,714	6,188
現金及び現金同等物の期末残高	6,161	-	6,161

2021年2月期 連結業績予想



新型コロナウイルス感染症の拡大影響

1 今期業績への影響

➤ 期初（2020年4月）見通し

- 影響は上期で終息する前提で試算
- 売上高 △100億円、営業利益 △18億円

➤ 新たな見通し

- 下期にも影響が残る前提で見直し
- 売上高 △166億円、営業利益 △33億円

2 影響長期化に対する対応（上期実施）

➤ 棚卸資産評価損計上、固定資産の減損

➤ 繰延税金資産の回収可能性の見直し

- 業績回復基調が緩やかになる前提で、バランスシートの見直しを実施

収益性は改善するも感染症の影響を見直したため 売上高と親会社株主に帰属する当期純利益を下方修正

➤ 期初予想から売上高を100億円減額

- 当初、見ていなかった下期の感染症の影響が74億円

➤ 営業利益4億円、経常利益4.5億円の上方修正

- 食品関連事業の収益性改善で、減収による影響をカバー

➤ 当期純利益は期初予想から4億円下方修正

- 上期に発生した特別損失と税金費用増をカバー出来ず下方修正

2021年2月期 連結業績予想

(単位：百万円)

	2020年2月期 実績	2021年2月期 期初予想	2021年2月期 修正予想	前期比	期初予想比
売上高	213,581 (100.0)	202,000 (100.0)	192,000 (100.0)	△21,581 <△10.1>	△10,000 <△5.0>
営業利益	2,721 (1.3)	1,800 (0.9)	2,200 (1.1)	△521 <△19.2>	400 <22.2>
経常利益	2,773 (1.3)	2,100 (1.0)	2,550 (1.3)	△223 <△8.1>	450 <21.4>
当期純利益 (当社株主に帰属)	1,010 (0.5)	700 (0.3)	300 (0.2)	△710 <△70.3>	△400 <△57.1>
E P S (円) (当社株主に帰属)	57.55	39.88	17.15	△40.40	△22.73
感染症の影響	◆売上高 … △166億円 ◆営業利益 … △33億円				

* () 内は売上比率 (%)、<> 内は増減率 (%)、修正予想は2020年10月6日公表の予想数値



経営課題と今後の取り組み



当社グループの課題と取り組み

外部環境の変化

- 新しい生活様式の出現
- 中食市場における競争激化
- セブン-イレブンの出店鈍化
- 米飯類のチルド化、冷凍化加速
- 原材料、人件費、物流費の上昇リスク

成長に向けた内部の課題

- 工場稼働率の向上
- 製造コスト増加への対応
- 売上高の拡大
- 食品関連以外の事業の収益性向上

持続的成長に向けた取り組み

- 1 国内食品事業の生産性向上と収益拡大
- 2 食品関連以外の事業の収益性向上
- 3 成長カテゴリーへの参入と海外事業のさらなる拡大

①国内食品事業の生産性向上と収益拡大

➤ 商品規格の見直し

- 材料、製法を見直し、商品の価値を向上
- 定期的な価格交渉の実施
- 生産効率を意識した商品開発

➤ 収益構造の見直し

- 要員適正化、派遣割合の見直し
- 夜間作業の見直し（昼間へのシフト）
- 省人化機械の導入促進

商品規格および収益構造、ふたつの見直しによる
'21年2月期の営業利益改善額は、約6億円の見込み

①国内食品事業の生産性向上と収益拡大

➤ 生産体制再構築（工場統廃合）

- 入間工場 2019年10月閉鎖、栃木工場 2020年2月閉鎖

2工場の閉鎖、生産拠点集約により
'21年2月期は約7億円の増益効果*を見込む（'20年4月）



移管先工場の生産効率が高まり、想定を上回る効果を見込む
'21年2月期の増益効果*は約10億円の見込み

*増益効果には、前期発生した一時費用の剥落を含む

- 更なる生産体制再構築は、引き続き検討中、決まり次第公表予定

②食品関連以外の事業の収益性向上

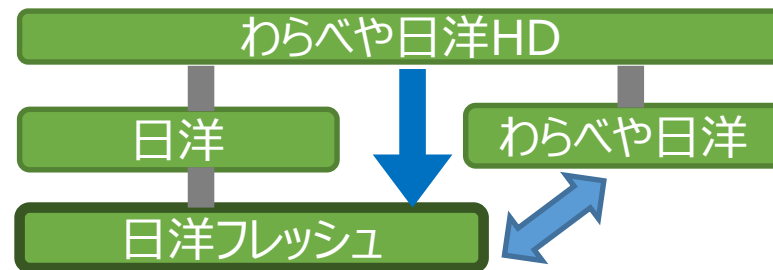
➤ 新型コロナウイルス感染症の拡大影響が収益を圧迫

- 食材事業、人材派遣事業の減益幅拡大
- 食品製造設備事業は、前年同期の一時費用を除くと減益

➤ 収益性向上のための取り組み

- 食材事業:(株)日洋フレッシュの再編

⇒ グループ内の連携強化による
最終商品化の推進



- 食品製造設備事業:(株)プロシスタスの体制変更

⇒ 外部販売事業への特化

⇒ 食品関連事業との連携を強化し、新規機械開発力の強化

⇒ 仕入れ機能の強化

③成長カテゴリーへの参入と海外事業のさらなる拡大

➤消費行動変化への対応と成長カテゴリーへの参入

- コロナ禍における消費行動変化：
 - ✓ 巣ごもり需要やプチ贅沢志向にマッチした商品開発で、和菓子の売上高増
- 長鮮度化ニーズ：フードロス等の観点から長鮮度の商品が求められており、チルドカップスープ、各種冷凍米飯等を開発

抹茶好きのための
濃い宇治抹茶パフェ



③成長カテゴリーへの参入と海外事業のさらなる拡大

成長分野への経営資源投入を継続

- 北京旺洋を今期から持分法適用関連会社に
- 新型コロナウイルス感染症の拡大影響があったものの堅調に推移
- TEXAS、USAの成功を今後の海外展開のロールモデルに

➤ 北京旺洋（持分法適用関連会社）

（単位：千元、％） * <> 内は増減率

旺洋	'19.12期2Q累計	'20.12期2Q累計	増減
売上高	68,238	68,532	294 <0.4>

➤ WARABEYA TEXAS

（単位：千ドル、％） * <> 内は増減率

TEXAS	'19.12期2Q累計	'20.12期2Q累計	増減
売上高	14,303	14,913	609 <4.3>

➤ WARABEYA USA（ハワイ）

（単位：千ドル、％） * <> 内は増減率

USA	'19.12期2Q累計	'20.12期2Q累計	増減
売上高	19,351	17,774	△1,576 <△8.1>

持続的な成長のために

➤ 次期 中期経営計画

- 今期は、新型コロナウイルス感染症の拡大影響に伴う一時的なマイナス要因も多く、来期以降はその要因が剥落
- 外部環境やそれらの要因を踏まえて来春、新たな中期経営計画を発表予定

◆ 問い合わせ先 : わらべや日洋ホールディングス (株)
経営企画部

e-mail : keiei-kikaku@warabeya.co.jp

TEL : 03-5363-7194

本資料には、当社の本資料作成時点における計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれています。この「将来予測に関する記載」には本資料発表時点までに入手可能な情報に基づいた当社の経営判断や前提が述べられており、諸与件の変化により実際の業績が「将来予測に関する記載」とは異なる可能性があります。したがって、本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来にわたって正確であることを保証するものではありません。

グループ理念

私たちは「安全・安心」と「価値ある商品・サービス」の提供を通じて、

お客様の**健康で豊かな食生活**に貢献します。

経営理念

お客様のニーズを追求し、変革を推進します。

コンプライアンスを実践し、透明性の高い経営を行い、

社会から信頼される企業を目指します。

人を育て、働きがいのある、環境にやさしい企業を目指します。

